

他では見られない夕日スポット

九州西端の五島列島の中でも、大瀬崎は最西端に位置します。沖縄の島々を除けば、日本で最後に夕日が沈む場所です。

一人佇む、絵画のような灯台

岬の先には大きな灯台が立っており、そこから放たれる光は日本最大級の明るさで知られます。一人佇む灯台は、東シナ海から吹き付ける波風に曝されています。灯台まで足を進めると展望台に至り、周囲の雄大な景色を一望することができます。晴れた日には、海の彼方に男女群島が見えます。

並行に走る岩脈

灯台は、海岸から突き出た大瀬崎の先端にそびえています。ゴツゴツした岩の塊とも言える岬は五島層群に属しており、アジア大陸から来た土砂が堆積して作られました。第三紀に、日本列島のもとになった地形と、アジア大陸との隙間に堆積してできたのが、五島層群です。

岬の西側（海側）からは、玄武岩の岩脈が見えます。岩肌に平行に走る、何本もの深い亀裂に見えるのが岩脈です。規模はより小さいですが、ここ以外でも大瀬崎の岩壁では同様の亀裂を見ることができます。

珍しい花

大瀬崎は花や鳥でも有名です。日本のレディーベルであるシマシャジン（学名 *Adenophora tashiroi*）は環境省により絶滅危惧種に指定されています。シマシャジンは明るい紫色の小さな花で、五島列島では大瀬崎の野原にしか自生していません。灯台から歩いて行ける場所でも見ることができます。開花時期は9月中旬から11月上旬です。

中国へ向かう 1 万の鳥

秋にはハチクマ（学名ペルニス・プティロリュンクス）など、空を飛び抜ける渡り鳥の群れを見ることができ、大瀬崎の名物になっています。ハチクマは翼幅 1m をゆうに超える巨大な猛禽類であり、一目でそれと分かります。9 月中旬から 10 月上旬にかけて、数週間間に 1 万羽以上が西に向けて飛び去っていきます。ハチクマは中国を横断して、インドネシアにまで達します。苦労せずとも、1 日のうちに数百羽が飛ぶ姿を見ることができます。

ぜひお越しを！

一見、退屈で寂しい場所に見える大瀬崎ですが、灯台の雄大さや岩壁の興味深い歴史、珍しい花々や頭上を飛び交う巨大な鳥の群れなど、大瀬崎は人を惹き付ける魅力に溢れています。